会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（今宿自治会）
2　日時	平成30年8月11日（土）18：30～20：00
3　場所	鶴嶺西コミュニティセンター
4　出席者	（資源循環課）森岡担当主査、永井主任 （環境事業センター）林所長補佐、鈴木主事 （今宿自治会）参加人数：12人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●燃やせないごみの処理はどのように行っているか。 →燃やせないごみは、粗大ごみ処理施設で破砕し、金属を取り除き、燃え易い状態にした上で焼却している。 ●燃やせないごみの組成分析は行っているか。また、燃やせないごみの焼却灰にどのぐらいの金属が含まれているか。 →燃やせないごみの組成分析は年に１回行っているが、その結果をすぐにお示しできないため、今後説明できるようにしておく。現在の粗大ごみ処理施設は、平成37年に建替える予定であるため、金属の回収量は増加すると考えている。燃やせないごみの中にある、カンなどを適切に資源物に分別していただくことで、金属の混入を抑えることができると考えている。 ●有料化と戸別収集を行った場合、歳入と歳出どちらのが大きいか。 →費用の算出を行っている段階なので、具体的にお示しができないが、算出された経費が実施の可否を決めるポイントと考えている。 ●集合住宅に住んでいても、戸別収集の対象になるのか。 →他市では、戸建が対象であり、集合住宅に住まれている方は、既存の集積場所を利用していただくこととしている。 ●戸別収集の対象品目は。 →検討中であり、お示しできない。藤沢市では、「燃やせるごみ」、「燃やせないごみ」から始まり、段階的に資源物も対象品目としている。現在は「古紙」、「衣類・布類」はステーション収集を行い、それ以外は、戸別収集の対象品目としているところである。 ●有料化等の施策はいつごろ実施するのか。 →来年度に方針を決定する。実施の場合は、方針決定後、ある程度の周知期間を設け

	た上で、実施することとなると考えている。 ●財政的に厳しいから有料化なのか、または、ごみを減量したいから有料化なのか、はっきりするべきである。また、有料化をする前に見直しすべき点があるのであれば、見直すべきである。 →ごみの減量化・資源化を推進するためのメニューのひとつとして、有料化等の施策を検討している。有料化を実施し、皆様にご負担をお願いする場合に、見直すべき点について、しっかり見直していきたいと考えている。 ●市は製造メーカーに対して、過剰包装等の指導をすることはできるのか。 →神奈川県を通じて、そのようなことを伝える機会がある。 ●戸別収集が実施された場合、カラス対策はどのように行うか。 →他市では、ポリバケツやネットなどを利用し、各家庭で鳥獣対策を行っている。 ●ごみの総量のうち約６割が、燃やせるごみとのことであるが、生ごみの水切りが不十分であるからか。 →生ごみの水切りが不十分であることのみが要因ではないが、相当量の水分が含まれているため、可能な範囲で水切りをお願いしたいと考えている。 ●有料化を導入すると、一時的にごみの減量が図れているが、その後は横ばいである。市として、その後の減量施策はどのように考えているか。 →手数料の値段をあげることにより、さらなるごみの減量を図るといった方法を検討している市町村もある。その他には、資源化可能な品目を拡大し、さらなるごみの減量を図る等の方法が考えられている。 ●金属類の品目の見直しは検討しているのか。 →金属類の品目の拡大については、今後検討していきたいと考えている。 ●最終処分場が利用できなくなった場合、どのように灰を処理するのか。 →既存の最終処分場のような広大な敷地を新たに確保するのは、非常に難しいため、灰の資源化が一番有力な方法と考える。しかし、灰の資源化については、ｔ当たり約４万円かかるため、ごみの減量化や資源化を進めることが必要になる。 以上